



高商大生による上信電鉄沿線 地域活性化への取り組み

高崎商科大学 コミュニティ・パートナーシップ・センター
センター長 ライトウ山崎晴世

高崎商科大学では、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択された「地と知から(価)値を創出する地域密着型大学を目指して」のテーマのもとに、上信電鉄沿線の「観光まちづくり」とそれを推進する「人づくり」を目指し、地域の課題である沿線活性化に取り組んでいます。

1. 工女おもてなしプロジェクト

富岡製糸場の世界遺産登録推進に携わってきた本学は、昨年6月より「工女おもてなしプロジェクト」を実施しました。これは連携先の上信電鉄から世界遺産登録を祝賀するために学生の協力を得たいとの要請を受け、COC事業で計画していた学生による「駅おもてなしイベント運営」の一環として実施したものです。

「工女おもてなしプロジェクト」では、高商大生が富岡製糸場で働いていた工女の姿に扮し、上信電鉄高崎駅、上信電鉄車中、上州富岡駅にて富岡製糸場周辺の観光案内やオリジナルルートマップによる富岡製糸場への案内などを行いました。

本プロジェクトを実施することにより、地域全体でのおもてなしが演出され、観光客のみならず沿線の方々が富岡製糸場世界遺産登録に対してさらに関心を高めるきっかけとなりました。また、生活路線から観光路線への転換を模索する上信電鉄にとっては、本プロジェクトで大学生が観光客のおもてなしに従事したことにより、イメージアップにつながったようです。

本プロジェクトは、上信電鉄より高く評価され、プロジェクトの継続を打診されました。また、連携自治体である富岡市ならびに地域住民からも、本学学生による地域の活性化活動に対して好意的なコメント、激励、さまざまな支援をいただきました。JR東日本高崎支社からは本プロジェクトを評価していただき、同様のプロジェクトへの協力要請があり、昨年8月より、SL特別列車の運行に協力しました。



上信電鉄高崎駅



上信電鉄 車中



上信電鉄上州富岡駅



オリジナルルートマップ

2. 富岡製糸場周辺における観光満足度調査

富岡製糸場とその周辺を訪れる観光客の意識と行動の実態を把握するため、11月8日・9日の2日間、高商大生が調査員として製糸場周辺の4か所でアンケート調査を実施し、364件の回答を得ました。

集計の結果、20.4%が富岡製糸場を「期待以上」と答えており、その他の設問とも合わせて全体的に富岡製糸場に対する満足度が高いことがわかりました。

一方、富岡での滞在時間については68.1%が「1～2時間の滞在」と回答しており、まちなかの回遊や滞在は少なく、製糸場の見学が中心であることが明らかになりました。さらに回答者の60.7%が自動車で来訪しており、一緒に訪れる場所として、こんにゃくパーク、伊香保温泉、軽井沢が多いことなど、新たな発見もありました。

本学では継続してこの調査を続け、データを富岡市と共有することで、富岡市が目指す「世界遺産にふさわしい日本一のまちづくり」に役立てていきたいと考えています。



工女姿でのアンケート調査